

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

岡山大学病院

部局長名：

前田 嘉信

| 目 標 | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組) | |
|--|---|--|
| <p>①教育領域</p> | <p>目標に関連する 年度計画の番号</p> | <p>教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> |
| <p>地域・世界で活躍できる優れた医療人を育成し、良質・安全で持続可能な医療の実践を促進するために、各種研修プログラムの充実並びに臨床研修医への支援・指導体制の充実を共に図る。また、デジタル技術等を活用した広報活動を行い、初期研修医及び専門医を含む次世代医療人の獲得に努める。 新たな臨床研修外国人医師等の受入については、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染状況を注視し、状況が好転しだい受入ができるよう準備を行う。</p> | <p>59-1 59-2 59-3 60-1 60-2</p> | <p>医科研修部門では初期研修医と基礎医学系の大学院生を両立するための「基礎研究医プログラム」を新設、歯科研修部門では令和4年度からの歯科医師臨床研修制度改正に伴う新プログラムを作成した。併せて、デジタル技術を活用した映像プラットフォームによるオンデマンド配信の基盤を構築し、医療教育センターと連携し、初期研修医、専門医及びその他医療系職員に向けた19のオンライン教育コンテンツを配信するなど研修プログラム充実を図った。 さらに、臨床研修指導医養成講習会の開催により、22名の指導医を養成し、初期研修医への支援・指導体制充実を図った。 初期研修医、医学科生を対象とした「岡山大学病院専門医研修ナビ@WEB」を開催し、各診療科の専門医研修情報の提供を行うとともに、卒業臨床研修センターのホームページの医科の初期研修希望者を対象とした病院見学に関するページの改修、歯科の新プログラムに関する説明動画を掲載するなど、広報活動を充実させた。その結果、マッチ率は医科研修部門で92.8%、歯科研修部門で94.3%であり、90%以上を維持した。 臨床研修外国人医師等の受入手続きの詳細を病院ホームページの職員専用ページに掲載し、今後のスムーズな受入れができるよう手続きの周知を図った。</p> |
| <p>②研究領域</p> | <p>目標に関連する 年度計画の番号</p> | <p>研究領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> |
| <p>探索的医薬品開発室において、遺伝子治療、再生医療などの新たな医療の実用化を目指し、国際競争力を有する新たな医療を推進する。また、細胞調製、製薬製剤のみでなく、幅広く医療器具の作製やその他の医療の実用化を支援する。 特定臨床研究の件数と質の維持に努めつつ、CRB(認定臨床研究審査委員会)申請及び承認までの期間を短縮するための研究者支援を継続する。さらに臨床研究中核病院として、医師主導治験の支援も行う。 橋渡し研究における拠点として、各アカデミアのシーズの掘り起こしと育成をさらに強固に実施し、臨床研究、薬事申請へのスムーズな移行を支援する。 橋渡し事業は令和3年度に終了するため、次期拠点事業採択のための準備を進め、後継事業への応募を行う。</p> | <p>56-2 61-1 61-2</p> | <p>探索的医薬品開発室は、白血病に対するCAR-T細胞療法において、認定施設としての設備管理や施設使用者へのトレーニングを行うなど、国際的に展開される最先端の治療法に対し支援した。また、細胞調製・製剤調製のみでなく、幅広い分野への展開を見据え、医療材調製など国際競争力が見込まれるシーズの実用化についても、開発に対する助言や施設提供などの支援を行った。 研究者への教育や臨床研究実施者への支援により、特定臨床研究の推進及び中国・四国地方での最高水準の質を維持した。特に特定臨床研究の研究責任者(PI)を対象とした特定臨床研究に特化した教育・研修をWebで行うなど、研究者の教育機会を十分確保した。更に、医師主導治験PIIについても講習会を開催し、研究者の質向上を図った。CRBへの申請手続きでは、年度を概ね3期に分けて申請時期を分散させるなど、申請から承認までの期間短縮が行えるよう配慮した。なお、CRBは毎月開催し、中国・四国地方における臨床研究や医師主導治験等の倫理性的の担保、研究の充実及び促進に寄与した。 橋渡し研究における研究拠点として、中国・四国地方を中心とした各アカデミアの研究シーズの掘り起こしと育成に関して公募を行い、昨年度と同程度の100件の応募があった。さらに、製薬企業5社共同研究公募説明会及び個別相談による企業とのマッチング等、臨床研究、薬事申請へのスムーズな移行の促進を図った。 令和3年3月に制定された文部科学大臣認定「橋渡し研究支援機関」制度に、従来、岡山大学病院新医療研究開発センターが行ってきた支援機能に加え、本部研究推進機構の機能と融合し、全学的に展開することも視野とした「岡山大学橋渡し研究支援拠点」として申請を行い、12月に認定を受けた。</p> |
| <p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> | <p>目標に関連する 年度計画の番号</p> | <p>社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> |
| <p>医療安全および感染制御の体制を強化しながら、大学病院としてさらなる高度医療機能の発展に貢献する。 先進的かつ高度な医療(臨床研究・治験を含む)および安心安全な医療を最優先にして提供する。また、次世代の術者育成を実施していくとともに、新たな先進医療の確立に努める。 地域との連携や逆紹介の効率化に向けて連携先医療機関との医療内容の把握に取り組むことで、地域医療機関との連携体制を維持し、中核的医療機関としての役割を果たす。 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として令和2年度に作成した肝炎医療コーディネータの活動支援や教育を行うためのツールの利用を促進する。さらに、医療従事者や患者等への相談支援を継続して行う。加えて、県内の肝炎専門医療機関と共同し、市民公開講座を開催し肝炎についての正しい知識普及啓発を行いつつ、B型肝炎訴訟団と連携し集団予防接種による感染被害者の実情を広く知ってもらうための講義を計画する。 地域がん診療の中核医療機関としてがんの高度先進医療、ゲノム医療、臨床試験の充実、がん診療・がん緩和医療に従事する医療人の教育を進める。また、岡山県がん診療連携拠点病院として地域のがん診療の質の向上を進める。 がんゲノム医療中核拠点病院として、連携するがんゲノム医療拠点病院・がんゲノム医療連携病院におけるゲノム医療従事者の人材育成支援を継続することで、地域のがん遺伝子パネル実施体制の一層の強化を図る。またTSO500を用いた新規がん遺伝子パネル検査の先進医療を継続し、臨床応用を目指す。</p> | <p>55-1 55-2 56-1 57-1 57-2</p> | <p>医療安全や感染制御に関するマニュアルの見直し・新規作成を行い、医療安全及び感染制御の体制を強化した。 臓器移植医療センターでは、コロナ禍による全国的な脳死下臓器提供数の減少が続くなか、臓器移植の増加に努め52例を施行(昨年度29例)、移植前のリスク評価及び移植後の検証・慢性期管理等を多職種連携チームで検討を行うなど、最先端の医療を安全に行うよう努めた。 低侵襲治療センターでは、Web研修等により術者育成に努めるとともに、腹腔鏡、胸腔鏡による内視鏡外科手術を安全に推進し、食道癌92.5%、大腸癌94.0%、胃癌100%と高い施行割合を維持した。ロボット支援手術では、昨年度導入の臓器手術、直腸手術、4月から保険診療適用の腹腔鏡下腎盂形成術、仙骨腫固定術など新規のロボット支援手術を順調に施行しており、次世代の術者育成、新たな先進医療の確立に努めた。 中核的医療機関として、逆紹介の推進のために連携先医療機関とのWeb面談を行い、同医療機関の医療内容を把握するとともに、かかりつけ医を持つことでの患者教育の重要性を説明するなど連携強化に努めた。 肝炎医療コーディネータの活動支援ツールの利用促進を引き続き行うとともに、肝炎相談センターによる病棟ラウンドを開始し、就労支援や重度肝硬変治療研究促進事業による医療費助成制度の周知を図った。また、公開講座や世界肝炎デーの院内イベント、医療従事者研修会等の開催により、肝炎についての正しい知識の普及啓発を行った。さらにB型肝炎訴訟団の弁護士による医療従事者向け研修会を行い、集団予防接種による感染被害者の実情及び肝炎訴訟に関する対応について学んだ。 県内のがん診療の質の向上と医療連携の構築を目指し、岡山県がん診療連携協議会等の継続的な開催や「県の南北のがん診療連携」をテーマとした研修会の開催等により、地域医療機関とのがん診療連携を推進した。また、がん相談支援部会での相互評価では、参加施設から、自施設に対する有用な提案を得たことについての高い評価を受けた。新たに組織を整備したがん・生殖医療部会では、「岡山県小児・AYA(Adolescent & Young Adult)世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」の取組として、県内におけるニーズと生殖医療の現状把握を行い、課題の共有と対策の検討を行った。 がんゲノム医療中核拠点病院としては、8月に保険収載されたリキッドバイオプシーがん遺伝子パネル検査の運用を9月から開始し、既に運用している検査と合わせて3種類のがん遺伝子パネル検査対応となり、コロナ禍においても出検数は昨年度以上の水準で推移している。また、連携病院等からの依頼によるがん遺伝子パネル検査のエキスパートパネルの実施件数も昨年度実績を大きく上回った(今年度646件、昨年度493件)。さらに、令和2年12月より開始したがん遺伝子パネル検査【TSO500】の臨床応用を目指した先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」は、コロナ禍の中、23施設が参加し、今年度の登録は144症例となり、施設数・症例数ともに増加している。 これら、がんゲノム医療の実現に必要な地域の人材育成のためオンデマンド及びオンラインでの人材育成セミナーを開催し、セミナーに関連して作成した動画資料の再生回数は7,600回を超え、人材育成資料として広く活用されている。 新型コロナウイルス対策として、昨年度から引き続き、毎週木曜日に「岡山大学病院新型コロナウイルス対策チーム会議」を開催し、院内・院外における新型コロナウイルスへの対策・方針を協議・決定した。また、職員からの新型コロナウイルスに関する相談対応を365日24時間体制で実施するとともに、職員・委託業者・学生に対するワクチン接種を行った。 さらに、昨年度に引き続き、「岡山新型コロナウイルス対応者会議」を週1回Web開催し、岡山県内の主要医療機関11病院、岡山県、岡山市保健所間で、各種情報共有等を行った。また、岡山県との業務委託契約に基づくホテル療養患者のオンラインでの健康管理についても、昨年度から継続して行った。</p> |
| <p>④管理運営領域</p> | <p>目標に関連する 年度計画の番号</p> | <p>管理運営領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> |
| <p>経営戦略会議・執行部会議において、経営指標等について分析を行い、MBO(目標管理)を実施して各科の病院収益等の経営状況の確認・フィードバックを行い増収に努める。また、今年度から設置した病院経営の専門家である病院長補佐等の外部有識者の意見も取り入れながら病院経営の安定化を図る。 医療材料や医薬品等の経費について分析・検討し、値引き交渉を行う等、コスト削減に努める。</p> | <p>62-1 63-1</p> | <p>経営戦略会議・執行部会議において、病床稼働率、外来患者数、診療費用請求額、診療経費、手術件数等の経営指標について検証・分析をするとともに、MBO(目標管理)の達成状況について、各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックを行うことで病院経営の安定化に努めた。また、学外から病院長補佐を新規採用し経営戦略会議のメンバーに加えて、診療の効率化を目的としたDPCⅡ期以内退院率の向上の取り組みを行った結果、4~1月は前年度の64.0%から今年度は66.3%に上昇した。さらに、救急医療管理加算の向上にも取り組み、4~1月累計で対前年度1,648万円の増収となった。 医療材料・医薬品について値引き交渉等を行った結果、医療材料の購入額(税抜き)で対前年度1,548万円(R4.1末現在)の削減効果、医薬品の上半期(4~9月)対薬価額(税抜き)で5億2,498万円、値引率(税抜き)12.65%の削減、下半期(10~1月)対薬価額(税抜き)で3億3,301万円、値引率(税抜き)12.86%の削減効果を得た。</p> |